果樹病害虫発生予察調査結果（１０／９調査分）
（三条、加茂、田上地域）

１０月９日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共　通）

○ カイガラムシ類が多数寄生している小枝は剪除し、園外で処分しましょう。太枝や幹では高圧洗浄機等を利用して落としましょう。

○ 越冬密度(カイガラムシ類・シンクイムシ類・ハダニ類・ハマキムシ類・ニセナシサビダニ等)を下げるため、**粗皮削り**を行いましょう。

○ 休眠期防除は丁寧に行いましょう。特にニセナシサビダニについては３月下旬に必ず実施しましょう。

○ 上記対策は受粉樹にも行いましょう。

（ナ　シ）

調査地点ごとに５新梢を調査しました。

○ 本年はセイヨウナシ褐色斑点病の発病が多数確認されています。落葉収集の際に作業負担を減らすため、**落葉前に剪定**を実施しましょう。支柱や幹の付近は集葉しづらい場所ですが取り残しに注意しましょう。また、多肥は控え、徒長枝の発生を抑制しましょう。

○ １年枝や短果枝等で、**黒変**や**かさぶた状**の花腐細菌病の病斑がみられる枝は剪除し園外で処分しましょう。また、剪定枝を粉砕機(チッパー)で処分する場合、粉砕した枝を園地内に残さないよう注意しましょう。

（ブドウ）

調査地点ごとに１００葉を調査しました。

○ 今回調査で、被害は確認されませんでしたが、落葉後に剪定枝・巻きひげ・落葉等を園外で処分し、病害虫の越冬量を減らしましょう。

（モ　モ）

○ 次年度のせん孔細菌病対策として、落葉期までに秋季防除を実施しましょう。

※<u>本年度の予察調査は、今回で終了</u>となります。

担当　：中越支所　果樹共済係
ＴＥＬ：０２５８－３６－８１０５
ＦＡＸ：０２５８－３４－８０２０